

「むこうまち・西国街道の未来を考える会」趣意書

むこうまち——私たちは、誇りを込めてこう呼びます。竹林が広がるこの美しい町は、かつて長岡京と呼ばれ日本の中心でありました。都が置かれた10年間の過ぎ、静かな田園に戻ったこの場所に再びにぎわいが訪れたのは安土桃山時代のこと、京都から大阪方面へと向かう西国街道の最初の町場として、向日神社の門前が選ばれました。街道筋には様々な商家が軒を連ね、江戸時代には和歌や書道などをたしなむ人々が現れ、商いと文化が両輪となって、にぎわいを生み出していました。このような歴史を受け継ぐ古い町並みを残しながらも、昭和には向日町商店街という、新たなにぎわいが生まれました。

しかし現在、西国街道・向日町商店街エリアは、貴重な文化遺産である町家が、次々と姿を消しています。そして、むこうまちの町場の象徴ともいえる築約280年の旅籠であり地域のコミュニティ・文化活動の拠点であった「富永屋」もまた解体予定といった状況に、私たちは大きな危機感を覚えています。

こうした現状を重く受け止め、私たちは今こそ、地域住民自らが立ち上がり、行政と手を携えてまちづくりを行うべきであると考えに至りました。このままでは、長い歴史を誇る西国街道・向日町商店街エリアは、単なる通過するだけの道路になってしまいます。理念と展望を持ったまちづくりで魅力的な街道に再生できるかどうかは、現代を生きる私たちにかかっているのです。

あらためて西国街道・向日町商店街エリアの歴史を振り返り、その可能性を探ってみると、歴史風情にあふれ、統一感のある「歴まちエリア」に再生することこそが、新たな道であると私たちは考えました。かつてのにぎわいを失いつつある通りが、歴史的街並みに修景され、魅力的な商店が並べば、地域住民の生活の質が向上するのはもちろんのこと、向日市民、ひいては乙訓の人々の大きな誇りとなることでしょう。

「西国街道歴まちエリア」の再生は、古き良きものを残し、新しい「むこうまちの未来」を開くことでもあります。近世以降の歴史的景観を現代に融合させ、さらに食事や買い物の利便性を加えたならば、「住む人」にも「来る人」にも、魅力のあるまちになるのではないのでしょうか。

私たちは今日まで、過去からの歴史遺産として、この街並みを受けついできました。そして、この遺産を私たちの代で捨て去るのではなく、新たな未来につなぐため、ここに「むこうまち・西国街道の未来を考える会」を設立いたしました。

多くの皆様と共に考え、活動していきたいと思っています。

2019年11月10日

「むこうまち・西国街道の未来を考える会」発起人一同

発起人 事務局長：安井昭

(以下五十音順) 鵜野高資・小田直寿・真貝理香・寺崎正直・新稲法子

「むこうまち・西国街道の未来を考える会」活動内容と当面の活動目標

＜活動内容＞

- ・ むこうまちの魅力を発掘し、それを未来のまちづくりにつなげていくこと。
- ・ むこうまちの景観の保存と活用についての考察。
- ・ むこうまちの地域住民、および関連文化団体、企業等とのタイアップによる新しいまちづくりの提案。
- ・ その他、むこうまちのまちづくりに関連すること。

＜当面の活動目標＞

むこうまちの歴史的建造物である「富永屋」の保存を市と市民に働きかけ、むこうまち全体の歴史景観を含めて、その活用方法を考える。